

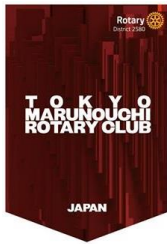
# 東京丸の内ロータリークラブ

2022年7月20日 第104回 例会プログラム



Club of Tokyo Marunouchi

T O K Y O  
MARUNOUCHI  
ROTARY CLUB



「夢、人、希望をつなぐ」

心を育てる芸術の力

Connect dreams, people & hopes

The power of art that nurtures one's mind

2022-23年度クラブ会長 President

吉田秀樹 Hideki Yoshida

“IMAGINE ROTARY”

2022-23 国際ロータリー会長

ジェニファー・ジョーンズ

2020-21 RI 第2580地区ガバナー

嶋村 文男



イマジン  
ロータリー

## 【式次第】12:00～13:00

1. 司会進行 光行 順子 幹事

2. 開会点鐘 吉田 秀樹 会長

3. ロータリーソング 「奉仕の理想」

4. ゲスト・ビジター紹介 寿原 裕美子 会員

本日のゲスト: 青少年交換留学生 山口 友睦君 山口 一弥様(父) 山口 智恵様(母)

5. ニコニコ報告 鷺澤 充代 会員

・吉田会長: 友睦君、応援しています。

・光行幹事: 友睦君が素晴らしい留学生活を送られますようお願いしております。

6. 会長挨拶 吉田 秀樹 会長

本日は友睦君のご両親もご出席され感謝。友睦君は留学し異文化間交流など多くを体験すると推察。留学を思う存分楽しむことを願う。

7. 委嘱授与式 吉田 秀樹 会長

古山直前会長へ地区環境委員 及び米山奨学生カウンセラー委嘱授与

8. 青少年交換留学生 山口 友睦 君

1分間スピーチ(仏語)

Bonjour. Je m'appelle Tomomu. Je vais etudier a Reims en France a partir du mois d'aout. Pendant mon sejour, je voudrais faire decouvrir la culture japonaise aux Francais que je reconterai et servir de pont culturel entre la France et le Japon.

こんにちは。友睦と申します。8月からフランスのランスに留学します。留学にあたっては、日本の文化を広め、日仏の文化の架け橋になればと思っています。

友睦君挨拶: 今回はスポンサークラブになって頂きありがとうございます。しっかりと親善大使を務め日仏の文化を広めたい。これからも宜しく願い致します。

光行幹事: 友睦君、トレビアン！毎回素晴らしいスピーチを堂々と披露して下さり私達を驚かせました。フランスに行ってもその堂々たる話しぶりでフランス人を圧倒させてください。きっと成功されると思います。

創立日: 2017年7月24日  
認証日: 2018年2月26日  
認証式: 2018年5月28日  
事務局: 東京千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル1F  
TEL: +81 3-5533-8846  
E-mail: marunouchi-rc@outlook.jp(事務局: 桑原奈知子)  
URL: <https://www.tokymarunouchi-rc.com/>

例会日: 第1・第3水曜日  
12時00分 - 13時00分  
例会場: 東京千代田区丸の内2-1-1 明治生命館B1F  
センチュリーコート丸の内  
(covid-19の期間中はオンライン例会の可能性あり)  
会長: 吉田 秀樹 幹事: 光行 順子

9. 幹事報告 光行 順子 幹事

・寿原 裕美子ロータリー財団委員長:「ロータリー財団から一人当たり100ドル以上が寄付されたこと」を表彰する旗が届いた。会員の寄付がロータリー青少年交換やウクライナ支援につながっている。

・9月9日と9月10日 地区大会登録、及びポリオTシャツ申込みを要請。

・9月3、米山奨学生合同合宿、日帰り旅行を計画、参加を乞う。

10. 壮行会 青少年交換留学生 山口 友睦 君

ブレザー、クラブバナー贈呈 吉田 秀樹 会長

缶バッジ贈呈

シトラスリボン・プロジェクト協力に謝辞 古山 真紀子直前会長

・シトラスリボンの精神を広めてくださり感謝。缶バッジは親戚より8個、ベネッセのママ友より128個集まった。皆で交換し国際貢献に繋がる。留学先で色々あっても自信を持って過ごしてほしい。丸の内 RC の事も思い出してほしい。出発までコロナ感染に気をつけて過ごすよう願っている。

山口一弥(友睦君の父)よりご挨拶:「友睦をアットホームなクラブから留学に送り出すことができ感謝。友睦はNYに留学した時に生まれた子供。アメリカ人でもある。生まれた時から国際交流運命づけられ、義務付けられたか。仏、シャンパーニュ地方、ランスに皆様のおかげで留学でき感謝。シャンパーニュ地方はシャンパンが有名。レオナルド藤田、藤田嗣治画伯が活動した拠点。友睦君は日仏文化を広めることを希望。レオナルド藤田画伯は日本のテクニックを広めたという意味では日本文化を広めたが、残念ながら戦争が原因で日仏文化の架け橋にはならなかった。友睦の時代は戦争のない平和な世の中であるので、日仏の架け橋になってほしい。一年間、元気に留学生活を送り来年成長して帰国するのでよろしく」

11. イニシエーションスピーチ 【別添ファイル参照】

12. 今後の予定

8月 3日 第105回例会	通常例会 Guest Welcome Day 卓話:津軽三味線 澤田邦風 名取 「三味線の音色と心の話」
8月 22日 第106回例会	通常例会 卓話:HIKARI(検討中)

13. 閉会点鐘 吉田 秀樹 会長

東京丸の内ロータリークラブ会長

吉田 秀樹

ARTIST / PHOTOGRAPHER

吉田秀樹写真美術研究所主宰

エンジェルオーク株式会社 代表取締役

株式会社 BFF 取締役

## 【イニシエーションスピーチ】

### 【プロフィール】

1991武蔵野美術大学短期大学部空間演出デザイン卒

株式会社丹青社 デザイナー

商業空間、リゾート計画、アミューズメント施設デザイン

1997 渡米

2000 Space Time Design Studio, Inc. 設立

舞台美術、デザイン、制作事業

2003 フォトグラファー独立

ニューヨークを拠点に東京、ロンドン、上海のエージェントと

契約し、世界各地の広告写真の仕事を手がける。

2009年 吉田秀樹写真美術研究所主宰

現代アート、アーティストとしての活動、 初個展開催

2017 帰国

2019 エンジェルオーク株式会社 設立 代表取締役

写真・映像・デザイン等クリエイティブプロダクション事業

2021 株式会社 BFF 設立 取締役

LEDビジョン販売レンタル・3D映像コンテンツ制作事業

## 吉田秀樹会長 イニシエーションスピーチ原稿

「ひらめき／直感力 と 決意／挑戦力」ミラクルがつなげた人生、アメリカ留学編

ともむくん、今日は、ともむ君がフランスへ旅立つ壮行会でもありますから、私の、渡米と、その結果のミラクル人生を紹介したいと思います。27歳からの思い切った渡米でした。非常に苦しい場面が、たくさんありました。一日\$1ドルの食費で凌ぐ時期もありました。何ヶ月もです。信じられないですが、本当です。もう来月のお金がないと言うところまで行きました。その時、ふううっと、目に付いたスクラッチくじを買うんです。\$2ドルでした（二日分の食費）。なんと\$200ドルが当たります。そして、その当たりから、また\$2ドル買うと、なんと\$20ドルが当たります。そしてまた買います、また\$5当たります、そして\$10当たります。それがなんと8回続いたんです。お給料ももらえず、勉強ということで必死で働いていた結果、

何かが、夢をつないでくれたんです。そこから一変しました。描いた夢は、叶う確率が高いと思います。大きな夢ほど、遠回りと厳しい苦勞が待っているかもしれませんが、でも、だんだん具現化していくような気がします。夢とは、宝くじのことではありませんよ、人生の目標のことです。人生はいろんなことがあります。何が起るかわからないです。私はまだ50代前半ですが、なかなかそれなりにバラエティーに飛んだ人生を過ごしてきている気がします。なので、お仕事のうち、今日はどれをスピーチするか、悩みました。それで、まあ、私個人をメインにお話しした方が良くかと思いましたが、実績紹介とこれからの活動を中心にお話しします。

私は、芸術家・フォトグラファーです。元々はファッションやビューティー、コスメのジャンルでモデルさんを中心に撮影して、広告や雑誌などに掲載されるお仕事をして来ました。今、スクリーンに映っているような写真の仕事です。あとで紹介します。

また、その一方で、現代アートとしての写真家でもあり、広告とは全く違うのアプローチの作品を作っています。今後、個人の活動で目指していくのは、この現代アートの分野です。これについては、後半で作品紹介します。私のプロフィールは簡単に書き出すと、このようなものです。プログラムにもありますので、ご覧ください。また、デザインと映像を主軸とした会社、エンジェルオーク株式会社の経営と、株式会社BFFの経営をしております。

エンジェルオークのHP <https://angel-oak.com/>

エンジェルオーク社では、ディスプレイデザインを年間通して手がけていましたが、現在はそこに、映像制作を絡めたプロダクション事業へ転換させているところです。ディスプレイデザイン、これはTOKYO MIDTOWN HIBIYAのSHOW CASE VMDのシーズン装飾です。それと、株式会社BFFでは、最先端LEDビジョンの販売レンタル・コンテンツ制作まで含めた代理店事業を行っています。映像を流す このような飛び出す3Dコンテンツ作ります。では、わたしがアメリカへ渡って、辿り着いた広告の写真のお仕事、どんなふうな風で作っているの、というのはみなさん大変興味深いのではないかなと思いますので、そのことをかいつまんでお話しします。

広告写真は、大体こんな雰囲気です。私が多くやってきたのは、モデルさんと特殊な表現のあるものが多いです。そして、こういうところでも、どどーんと見ることができます。銀座の有名な交差点ですね。私のHPを見ていただくと、たくさん掲載していますから、ぜひ覗いてみて下さい。

[www.yoshidahideki.com](http://www.yoshidahideki.com)

撮影現場、大体こんな雰囲気です。これは、私の撮影現場ではないのですが、私が美術を担当したCMのシーンから抜粋しました。ま、一般的で小規模な撮影現場の様子ですね。写らないところに、照明やいろんな機材がたくさんあります。実は、私たちが撮る広告写真は、撮影の前後も非常に大切なんです。準備がたくさんあります。撮影プロダクション（シチュエーションの設定）、そして、撮影（現場）に入ります、そして、ポストプロダクション（レタッチいわゆる画像処理、カラーコレクション）という撮影後の仕上げ作業にあたるものがあります。まず、最も重要なのは、どんなふう撮影するか、です。ライティング、ロケーションもしくは撮影セットなど、どんなシチュエーションで撮るのかということ考えます。そこには、モデルオーディションも入ります。そして、撮影ですが、広告撮影の現場は多くの役割の人が関わっているので、我々フォトグラファーは

あるときはディレクターとして、あるときはプロデューサーとして立ち回れるような能力を持って場を仕切らなければいけない場面がたくさんあります。私も、撮影のその瞬間は、人が変わります。アドレナリンですね、ガツと上がって、突然大量の指示を飛ばしたりして、一斉にスタッフを動かしたりしています。口調も荒くなります。急ぐのでね。たまにそのギャップに焦ってびっくりしちゃうアシスタントもいます。でも、撮影時間は本当に一瞬と言ってもいい場合がありますし、その一瞬のために、本当に巨額の予算が投じられていますから、何重もの危険予知をたてて、本番に望む訳です。ですから、その瞬時のダッシュに対応しきれないといけないんですね。

ともむくん、アメフトでも、そんな一瞬のチャンスってありますよね、おそらく、そこに全員が同じ意識を持って、それぞれ別の立場の行動を起こして、全てが上手く合致したとき、そのチャンスをつかみますよね、それとおなじです。

例えば、これ、松井秀喜さんの撮影。吉野家100周年、ヤンキース時代、14、5年前のお仕事ですが、これが私の中では一番撮影時間の短い広告だったと思います。ニューヨークで撮影したのですが、TV CMと同日撮影だったんですね、私はTV CMとの撮影は経験済みだったので、絶対にスチル写真撮影の時間を食い潰すと思ったんですね。全て案の定でした。当初の撮影の持ち時間、50分、ところが、実際の残り時間は20分でした。で、実はこのメインカット以外に等身大のカット3カットとクローズアップ3カットあったんです。で、扱うものは、本物の牛丼です。湯気がどうこう、肉の盛り付けの見え方がどうこう起こります。色々チェック項目があります。

そして、松井さんはモデルとしては素人です。ですから、短い時間の中でたくさんの難所クリアしなければいけません。私は、約束通り50分を要求しましたが、松井さん一分一秒のスケジュールの方ですから、当然要望はとおらず、でも10分延長で30分もらいます。これ、交渉です。もう、直感的に、自分で松井さんの演出に走らないと間に合わないと思い、その場で彼の手をつかんで、自ら演技指導をやりました。これは普通の持ち方では牛丼の盛り付けが見えないんです。カメラが低い位置から松井さんを撮って見上げるシーンを作りますから、普通なら丼の下が見えるんです。ですから、不自然なぐらい傾けて、腕の位置もグッとあげて、と言う感じ、私とその位置を、教えるんです。その間にアシスタントが、私が指示した場所にピントを合わせたり、別なアシスタントがライティングの調整をしたりして全て同時進行、で、松井さんと各所のアシスタントへ微調整の指示を送りながら、撮影を行います。そのように、全体のディレクションしながら15分でOKをもらい、残りの全身カットを時間通りに終わらせるという、本当に一点を取りに行くチームスポーツのようなものと同じです。

ですから、ともむくんも、アメフトでつちかった能力は、どこにでも応用が効きます。覚えておいて下さい。大丈夫です。それで、実は、ここの湯気、湯気は実際写らないんですね、それ用の撮影方法を取らなければいけないんです。でもこの場合時間がありません。そこで、ポストプロダクションです。この時の湯気はフォトショップ、デジタルで作ります。色調もイメージに合わせて、調整していきます。松井さんはもともと日焼けしていましたが、牛丼の肉のような色味にしたりして、また吉野家のロゴの色なども意識し、画面全体で調整していくんです。これは非常に時間と技術力とセンスが必要な作業です。ちなみにこれは広告批評という雑誌の年間大賞に選ばれたのですが、松井さんの顔が牛丼の肉の色、と大絶賛の批評してあり、しめしめと思いました。こう言ったように、我々の広告の写真は撮っただけでは終わりではないんです。

撮影後の画像処理、そこにとっても労力かかっています。事前準備も綿密です。この15分の撮影のために2日間かけ撮影セットを三つ準備していますし、牛丼も何十杯も用意されています。一瞬の勝負なんです。

最近ではレタッチ技術とソフトウェアの進化が著しく、繊細なライティングは省かれていく傾向にあります。自然な光の特徴（ストロボでも同じです）を利用するのが最も綺麗に被写体を表現できるのは間違い無いです。少し残念ではありますが、コスト面、時間面を考えると、どうしても手軽な方へシフトしていったというのが、実態であるかもしれません。フィルムからデジタルに以降した、というふうな感覚と似ていかなとも思います。

例えば、この方、中谷美紀さんですが、もともと非常にスキンコンディションもよくお綺麗な方ですが、これも非常に繊細なライティング、その後バッチリ丹念にレタッチして仕上げています。大抵の皆さんは影を嫌がるのですが、影が美しい場合は大いにあると思います。自然な影は美しいです。

一方で、こう言った仕上げ方もあります。（伊勢丹）絵のように仕上げます。左側のイセタンの広告ですが、これアートディレクターからNYへHELPのメールが届いたんですね。クライアントからやり直しばかり食らって、外されそうだから助けてと言うんです。たまたま帰国のタイミングだったので、お引き受けして、初の一発OKを頂き、その後も引き続きこのキャンペーンを引き受けることにありますが、この時実は現代アートの活動をしていたので、広告の世界へ復帰するきっかけになったお仕事です。右側のこビューティなどは、本当に丁寧に一本一本修正しながら描いてますよ。これなどは、すごく、手が混んでるんです。その他、私は、いろんな撮影ができる、稀なタイプです。後で改めてHPなど見ていただけると良いのですが、HPでの解説 <https://www.yoshidahideki.com/>

はい。これらが、それなりに頑張った広告写真の実績ですね。でも、ここに辿り着くまで、いろんな不思議があったんです。あの、腐らず、NO PAYインターンで勉強を続けた時のスクラッチくじのあと、世界の巨匠からスカウトを受けるんですね。そういったミラクルエピソードがあって、私はニューヨークでフォトグラファーデビューします。ここで、私は、直感と決意、行動力と信念の結果の大きさということを学びました。これは人それぞれの形がありますから、危険と背中合わせが良いということではないです。で、私の場合は、独立してすぐに、ワールドキャンペーン、連続で雑誌の表紙掲載が続き、それでも資金面などの重大な苦労がありましたが、実績については、とんとん拍子でした。でも、実は、スタジオを卒業したら現代アートに進みたかったんです。しかし、オランダの大学から編入を認めてもらえず、迷った末、次にやりたかった3Dアニメーションの会社に入れたんですが、スタジオの卒業にと思って作った写真が雑誌に掲載されたりで、止まらない勢いとなり、3Dアニメーションは半年で諦め、広告写真へ進んでいきました。これが、その時、私が独立直前のファッション写真作品です。20年前です。ライトペインティング、長時間露光とストロボのミックスの撮影手法です。本当に苦しい時期なんどもありましたね、でも私の場合は、ここから、こうなったと言うことです。

#### 広告写真の実績

私に、いろんなミラクルが起こったのも、おそらく、ひらめき／直感力 と 決意／挑戦力 と 遠い将来像をイメージしているからだと思っています。それは今でも続いています。私、多分運がいいんですね、しばらく気がつかなかったんですが、それを上手く受け止められているのかどうかという点が、私の試練のような気が

しています。そして、帰国後、先に紹介した、エンジェルオークとBFFを立ち上げ、これまでの経験からなる実績をひとまとめにした事業を始めることとなります。両社とも非常にこだわり抜いた社名ですが、名は体を表すというように、それは実際とても重要なことだと思います。そして、私の、次の、ステップは、現代アートへのリベンジです。現代アートこちらが現代アートのHPです。 <https://www.yoshidahideki.com/art/>

これは当時、勇足になってしまっていました。完全なくじりになる前に気がついて、軌道修正して、今ようやく再始動というイメージです。あの時も信じられないチャンスが巡ってきたのですが、準備不足で、決意不足だったのかもしれませんが。自己に逆らっていたせいか、ミラクルが逆波動にもなったんですね。信じられないブロックがかかるんです。何をやってもその先へ進めようとしない現象が続きます。不思議で、悔しかったのですが、「まだ早い、焦るな」というサインであったんだらうと、今、何となくそう理解ができています。私の現代アートのテーマ・メッセージの根源は、表裏一体 相反するものの存在と同一間（あいだ）にあるもの境界と無境界次元の繋がりや広がり、自己存在位置生命（自然）の永遠の繋がりとそのメッセージ時間軸と空間軸の無限言葉に置き換ええないコミュニケーションの意味イルカのシリーズがありますが、これは生命の生きる為のメッセージと多次元間での結びつきが描かれています。

「Silent Echoes」

「Voyage Throuth Infinity」

「Flow」 「Continuum」

これらは対になっています。

「Continuum」

そして、こちらは武者小路千家の献茶式の副席会場に展示されました。

「Silent Echoes」です。

これらの作品では、「耳に響かぬものを見よ、目に映らぬものを聴け」と、言葉には置き換ええない、コミュニケーションでの生命の繋がりを伝えたい作品です。そしてこれから再着手したいのは、この作品シリーズです。「海妖」という作品シリーズ、反対から読むと「妖怪」です。英語名は「WAKE」です。2007年に、帰国中突然空いた時間で、ふと思立って沖縄に行きました。海が綺麗でした、一人で離島の食堂で美味しい海ぶどう丼を食べながら、つい「海綺麗ですよ〜」とお店のおじいさんに呟いたんです。そうすると、「あんた、内地から来たんだらうね、海は汚くなった、」と言ったんです。衝撃でした、こんなに綺麗な海が汚くなったって、どんなに綺麗だったんだらう、でも、これで綺麗って思ってしまうんだらう、海が汚れていくことなんで気づけるはずがないなと思ったんです。気がつけない。それが最も良くない。帰りのボートで、一心不乱に海の波の写真を撮りました。船の後にできる波のしぶきを、撮りました。海の断片にひそむものを撮ろうと、何かに取り憑かれたようなそんな気持ちです。そして、すぐにモノクロで加工し、白黒を反転させ、この「妖怪・海妖」のシリーズを作ります。「妖怪」とは、実は我々人間が自然に対し慈しみを与えれば幸となり、自然に対して害を与えれば災いをもたらすという、表裏一体の考えから生まれてきたものだとされています。

私たちは、自然を無下にしていると思ったんです。気が付かなければいけないと思ったんです。その時、この海の写真のタイトル、海は海洋です、「海洋/妖怪」のひらめきとマッチングにも驚いたんですが、次に英語に翻訳するタイトルはどうしようかと思った時です。伝えるの難しいなと思ってました。でも、私が撮ったものは、英語で「WAKE」だったんです。この単語、気がつきませんよね、当時プエルトリコ出身アメリカ人のトリリングルのアシスタントがいたんですが、この作品に非常に興味を持ってくれたので、この経緯を話をしたところ、「HIDEKI、すごい、WAKEっていうんだよ船の軌跡の波は、あなたの語っていること、と同じ言葉、」って言うんですね。私、いろんなことに、気が付かなければいけないよ、ってことだったんだと思いました。これは2009年に、イルカの作品と一緒に屏風にして発表されます。

そして、翌年ギャラリーからもっと大きな規模での展覧会を提案されます。ところが、企画が始まった時、3月11日東日本大震災が起こります。この作品のメッセージは、くだけて言えば、妖怪の声「自然（海）を汚しすぎている、バチが当たるから、もっと大事にしようよ、」でした。津波の被害がありましたら、的中みたいな、変なムードになって、当時は、ひんしゅくを買うから、もう展覧会はやめようという判断でした。

でも、震災から来年12年目なんですよね。私は今だからこそ、この作品シリーズを発表しても良いかなと思っています。今は、環境問題が、ようやく一般に浸透来ていますから、もう一度真剣に考える意味として、です。私は、人生をこういう話でつなげていけば誰でも都合よく良い話になる、と思っていたこともあったのですが、そうでもない。やはり、本当に将来伝えたいメッセージの作品があるので、それが一人の力ではできない規模なので、そのことのために必要な、難関がミラクルとなって、僕にやって来ているとしか思えないです。良く、「壁にぶち当たる」という表現になっているものも思い出します。目標の内容とその壁のボリュームは比例するんじゃないかなと、そう思います。

ともむくん、フランスの切符、手に入れましたよね。どういう夢につながっていくのか、楽しみですが、おそらくその将来のために遠回をさせられる時もあるかも知れません。でも、得点を決めるために働かせて来た頭脳は大いに役立つと思うので、常に難局を突破する精神で旅立って来ててください。一瞬の間に浮かぶ何通りもの作戦=アイデア中から、一番輝き閃くもの、それを掴みとるセンスあると思います。私も、これからこの新たな挑戦をします。一緒に新たな挑戦、つまり決意を形にする目標を立てましょう。いろんなことが待っていますよ！

最後に、私のこれまでのキャリアとなる、写真、映像、空間演出、ファッション、ビューティー、現代アート作品の全ての要素が統合して出来上がった映像作品をご覧ください。これロンドンの世界的レジェンドファッションフォトグラファーから、選ばれた作品です。私のアート作品のコンセプトに、MIRIさんというモデルさんのプロモーションも兼ね、演じてもらった、**Silent Echoes** です。